

| | | | | |
|----------|--|------|-----------------|---------|
| 科目名 | 会計学 | 科目分類 | ■専門科目群(第1グループ) | |
| | | | □総合科目群(第2グループ) | |
| | | | 経済学科 | □必修 ■選択 |
| | | | 学科 | □必修 □選択 |
| 英文表記 | Accounting | 開講年次 | □1年 ■2年 □3年 □4年 | |
| ふりがな | よしだ かつひろ | 開講時期 | ■前期 □後期 □通年 □集中 | |
| 担当者名 | 吉田 勝廣 | 修得単位 | 2単位 | |
| 授業のテーマ | 製造業における製造活動の計算・記帳について理解する。 | | | |
| 授業概要 | 会計は、ビジネスや企業、あるいは経済社会についてより詳しく知るための基礎となるものである。本講義では、企業の経営管理活動と会計との関係を意識しながら、財務諸表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書・株主資本等変動計算書)によって提供される企業の財務情報を読み取る力を養うために、財務諸表について講義する。 | | | |
| 到達目標 | 会計学の全分野にわたって、基礎的な知識と会計処理のできる技能を修得し、企業が公表する会計情報に基づいて、企業活動の実態を自分なりに推論できるようになることを目標とする。 | | | |
| 授業時間外の学習 | 簿記の学習をしっかりと取り組んでおくこと。 | | | |
| 履修条件 | 日商簿記3級程度の知識が必要です。 | | | |
| 授業計画 | | | | |
| 第1回 | 会計の基礎、簿記会計の基本構造 | | | |
| 第2回 | 企業会計原則①:一般原則、現代会計の基本構造 | | | |
| 第3回 | 企業会計原則②:発生主義と費用収益対応の原則、実現主義、取得原価主義 | | | |
| 第4回 | 企業会計原則③:費用配分の原則、経過勘定項目、減価償却と引当金、繰延資産 | | | |
| 第5回 | 特殊商品売買①:割賦販売、委託販売 | | | |
| 第6回 | 特殊商品売買②:その他の特殊商品販売 | | | |
| 第7回 | 工事契約:工事契約に係る収益認識基準と会計処理 | | | |
| 第8回 | 棚卸資産:棚卸資産の取得原価と期末評価 | | | |
| 第9回 | 固定資産:有形固定資産の減価償却と期末評価、固定資産の減損会計等 | | | |
| 第10回 | 無形固定資産と繰延資産:無形固定資産、研究開発費および繰延資産の会計処理 | | | |
| 第11回 | 税金と税効果会計:企業に課せられる税金と種類と会計処理、税効果会計 | | | |
| 第12回 | 金融商品会計:金融資産の発生の認識・消滅の認識と有価証券の保有目的区分 | | | |
| 第13回 | デリバティブ:デリバティブ取引の種類と会計処理、ヘッジ会計 | | | |
| 第14回 | 外貨換算会計:外貨建取引、外貨建有価証券の会計処理 | | | |
| 第15回 | キャッシュ・フロー会計:キャッシュ・フロー計算書の概要と作成 ※受講生の理解度等により、講義の順番を変えることがある。 | | | |
| 第16回 | 定期試験 | | | |
| テキスト | 資料を配付する。練習問題を解くために、電卓(12ケタ以上)を持参すること。 | | | |
| 参考文献・資料 | 授業中に紹介する。 | | | |
| 成績評価の方法 | 授業態度(30%)、提出物(10%)、定期試験(60%) ※授業態度は、授業内容に対する関心度と理解度を質疑応答において確認評価する。 | | | |
| 成績評価基準 | 【平成27年度(2015)以前に入学した学生】 | | | |

| | |
|---------------|--|
| | <p>優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>【平成28年度(2016)以降入学した学生】</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合、授業料その他納入金未納の場合は試験を受けることができない。</p> |
| オフィスアワー | 水曜日と木曜日の空き時間 |
| 学生への メッセージ | <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記会計を習得するには平素の努力が大切である。 2. 積極的に日商簿記検定2級を受験し、資格取得を目指してほしい。 |